

領域別編

安全教育は、「災害安全（防災と同義）」「生活安全（防犯を含む）」、「交通安全」の3つの領域で構成されています。

危機を予測し、その危機を回避することで傷害を防ぎ生命を守ることが安全教育の究極のねらいです。さらには自然災害が発生した時に、その復旧・復興に力を注ぐ態度も安全教育をとおしてはぐくまれます。

3領域における指導の視点や、避難行動の違いはあるものの、児童生徒等の危機予測能力、危機回避能力は、安全教育全体をとおしてはぐくまれるもので、3領域に偏りがないよう、学校安全計画に基づいて計画的に進めなければいけません。

災害安全領域

【領域別編 災害安全領域】

I 学校における災害安全

- 1 災害安全のねらい…………… 41
- 2 災害安全の構造 …………… 42

II 学校における災害安全教育の視点

- 1 関連する教科等における災害安全学習 …………… 43
- 2 災害安全指導 …………… 47
 - (コラム)学校行事等における工夫した実践例 …………… 49
- 3 地域の特性をふまえた災害安全教育の展開 …………… 50
- 4 災害安全指導における防災避難訓練 …………… 58

III 災害安全管理

- 1 災害発生時の安全措置 …………… 62
- 2 災害発生時の対処行動 …………… 64
 - (コラム)危機に対する認知 …………… 67
- 3 児童生徒等の保護者への引渡し …………… 68
- 4 登下校時、校外学習時、在宅時に発生する災害 …………… 70
- 5 原子力災害(参考) …………… 73

IV 災害安全領域における組織活動

- 1 教職員研修の充実 …………… 74
- 2 家庭、PTA、地域社会や地域関係機関等との連携 …………… 75

V 学校が避難所となる場合の対応

- 1 初動体制 …………… 76
- 2 福祉避難所としての役割 …………… 76

I 学校における災害安全

1 災害安全のねらい

災害安全においては地震、津波、火山活動、風水（雪）害のような自然災害や火災、原子力災害に関する内容を取り扱い、児童生徒等が災害に対する心身の備え、災害発生時の対処行動等、**自らの命を守る能力**を身に付けるための取組を進めることが大切である。

また、**災害発生後の生活や復旧、復興を支援する**という視点から、それらを実践できる能力をはぐくむことも必要である。

災害安全は

(1) 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項が理解できる。

・・・・・・・・**わかる**

(2) 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断のもとに自らの安全を確保するための行動をとることができる。

・・・・・・・・**助かる**

(3) 災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができる。

・・・・・・・・**みんなで助かる**

の3点をねらいとしている。

我が国では地震や台風の襲来による風水害等の自然災害が毎年発生しており、これらの災害に重点を置く傾向が見られるが、地域の特性等によって起こる災害は多種多様である。児童生徒等は将来、現在居住する地域とは異なった地域に生活基盤を置くことも考えられることから、災害安全教育ではあらゆる災害を取り扱う必要がある。

2 災害安全の構造

災害安全の構造は、図4のとおりである。

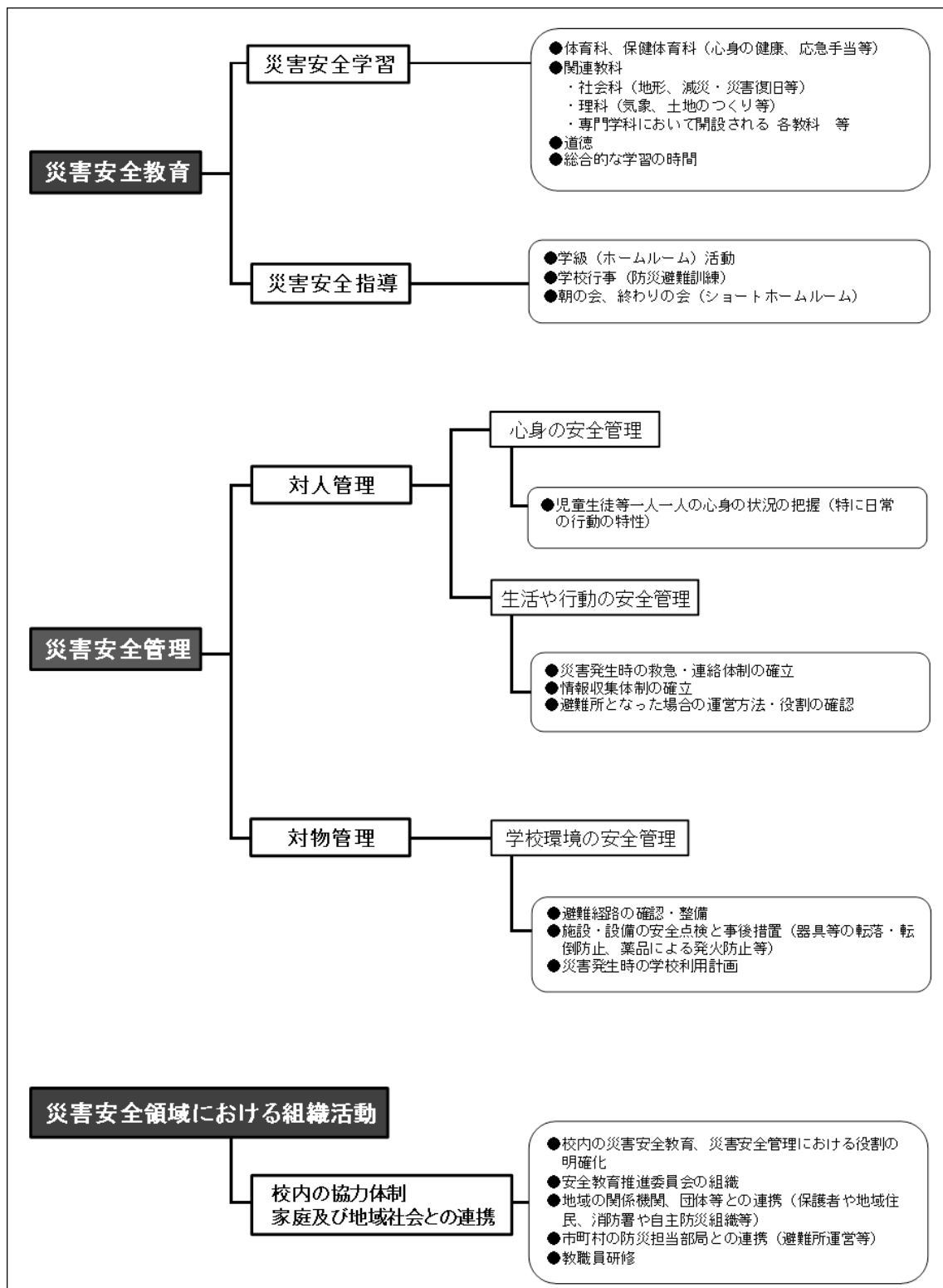


図4 <災害安全の構造図>